2025 年度 福祉助成金（研究助成）完了報告書　提出用

公益財団法人 橋本財団
理事長 橋本 俊明 様

2026 年 5 月 31 日

ふりがな	おかやまだいがく　がくじゅつけんきゅういん　きょういくがくいき			
大学 研究機関名	岡山大学　学術研究院　教育学域			
代表者名	役職名	教授	氏名	吉利　宗久
連絡先	住所	岡山市北区津島中三丁目１－１		
	TEL	086(251)7691		
	E-mail	yositosi@okayama-u.ac.jp		
	URL	なし		
助成額	500,000　　円			
研究要旨	本研究は，長期療養を要する小児がん患児の学習権保障と復学支援の質的転換を目指し，大学生による学習支援の実装可能性と人材育成モデルの基盤構築に取り組むものである。岡山大学教育学部と大学病院の医教連携のもと，実際の学習支援ボランティア実践を核に，学生支援者へのフォーカスグループインタビューを実施し，SCAT による質的分析を行った。その結果，支援活動は患児の学習機会および心理的安定に寄与するのみならず，支援者自身の役割認識の深化や実践知の獲得を促す教育的価値を有することが示唆された。さらに，信頼関係の構築や個別対応の工夫が支援の質を規定する一方，情報共有の困難やオンライン支援の制約，体系的育成プログラムの未整備といった構造的課題が抽出された。加えて、学生支援者の自己成長の分析に関する予備的検討も行い、そのプロセスの一端を捉えることができた。本研究の成果は，医療と教育の接続領域における新たな支援モデルの創出に資するとともに，他の長期療養児や不登校支援への波及可能性を有する基盤的知見を提示するものと考える。				
研究の目的	本研究は，長期療養を要する小児がん患児の学習権保障と円滑な復学支援の実現に向け，院内教育および学習支援ボランティアの活用の在り方を明らかにすることを目的とした。小児がん患児は治療に伴う長期入院や通学困難により学習機会が制限されやすく，現行制度では院内学級の未整備や学籍制度の制約等により学習空白が生じやすい。近年は遠隔教育の活用が進むものの，体調等の制約から十分な支援には至っていない。そこで本研究では，遠隔教育における学習支援ボランティアの役割と有効性を検討し，大学生支援者の特性を活かした人材育成モデルの基盤を構築する。これにより，医療と教育の連携による持続可能な学習支援システムの提案を目指し，小児がん患児の社会的自立と QOL 向上に寄与することを目的とする。				
研究の 実施方法	本研究は，医教連携体制に基づく分野横断型の学際的研究として，その利点を活かした研究デザインを採用した。具体的には，岡山大学教育学部と岡山大学病院の連携により試行してきた長期療養中の小児がん患児に対する学習支援ボランティア活動を本格実施し，学習支援の効果を支援者の成長過程および困難との関係から検証した。まず，関連資料の収集と研究動向の整理を行うとともに，学習支援経験を有する学生支援者を対象に半構造化インタビューを実施し，学習支援の意義と実践的課題の把握を試みた。分析にあたっては，事前学習に必要な知識（治療面・心理面），支援児との信頼関係の構築，保護者・医療者との連携，学習導入および学習計画の形成過程等を視点とした。これにより，復学に向けた原籍校との連携や退院後のフォローアップを含む支援システム構築に向けた実践的知見を探った。				
研究の成果	・吉利 宗久．大学生による小児がん患児に対する遠隔学習支援の成果と実践的課題．日本育療学会第 29 回学術集会抄録集 2025 年 8 月 ・吉利宗久．小児がん患児に対する遠隔学習支援における大学生支援者の成長過程と実践的課題 リハビリテーション連携科学(日本リハビリテーション連携科学学会) 26(2) 121-129 2025 年 10 月 ・陳 依文,吉利 宗久．高校特別支援教育コーディネーターにおける小児がん患児支援に関する教育施策への理解と役割意識．岡山大学大学院教育学研究科研究集録 191 177-185 2026 年 3 月 ・(報道) NHK 総合テレビジョン：闘病の子どもに学びを．(岡山放送局もぎたて!：放送日 3 月 19 日(木)午後 6:10～特集)（静岡放送局　たっぷり静岡 3 月 26 日(木)午後 6:10～）活動の様子。			

研究の成果の公表状況 今後の公表予定について	・前述のように、学会発表及び学術論文として、成果の一部を公表した。また、学生支援者による学習支援のデータを収集、蓄積することができたため、継続的に分析とその成果の公表に努める予定である。

＊2026 年 5 月 31 日締切です。必要事項を入力のうえ Word ファイルをメールにてご提出ください。